

『縄文文化の繁栄と衰退Ⅱ』

明治大学日本先史文化研究所 第2回シンポジウムのご案内

これまで縄文文化は気候温暖化とともに成立し中期に発達を遂げ、中期以降におこる気候寒冷化によって終焉を迎えるとされてきた。しかし、後晩期には気候変動の影響だけではない人類社会の適応的な活動があることもわかってきた。第1回のシンポジウムでは関東地方を中心として中期から晩期にいたるやや長い時間の中で、動物・植物・ヒトにおける寒冷化の影響の有無について議論し、環境変動が仮にあったとしても人類社会に大きな変化は見られないことを確認した。

今回は特に「弥生小海退」とされる環境変動が具体的にどのような根拠によっているのかという古環境学の成果を整理し、縄文晩期から弥生時代初頭に焦点を当て、遺跡群の形成や動物資源（陸上動物・魚介類）・植物資源（堅果類と栽培植物）、人骨の古食性などから当該期の状況について議論する。

日 程：2015年11月29日 受付開始9:30 開会10:00 終了16:30

会 場：明治大学駿河台キャンパスリバティタワー 1083教室 定員150名

申し込み方法：当日受付のみ。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

参加費資料代：無料 一般の方も参加できます。

- 1 「自然環境の変化と人類史をどう結び付けるか」・・・・・・・・・・・・・・・・・・遠藤邦彦
 - 2 「縄文後晩期の集落形成と遺跡群」・・・・・・・・・・・・・・・・・・阿部芳郎
 - 3 「貝塚形成と環境変遷」・・・・・・・・・・・・・・・・・・樋泉岳二
 - 4 「縄文弥生移行期の森林環境の変化と植物資源利用」・・・・・・・・・・佐々木由香
 - 5 「栽培植物の多様化の背景」・・・・・・・・・・・・・・・・・・中沢道彦
 - 6 「古食性からみた環境」・・・・・・・・・・・・・・・・・・米田 穰
- 討 論(全員)

なお、シンポジウムの構成や発表タイトルが一部変更になる可能性もありますが、ご了承ください。